

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100114		
法人名	株式会社ケア・コスモス		
事業所名	グループホームみどり荘		
所在地	群馬県公田町1194		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が日頃から、楽しく穏やかに暮らしてもらえるようにレクリエーションを考えたり、その時々合ったイベントをたくさん企画しています。スタッフ自身が毎日を楽しみ笑顔で仕事を取り組んでいます。また、明るい施設・職場作りを大切に、御家族や来客者にも良い雰囲気がかかること全員が心がけています。週に1度、地域の傾聴ボランティアの方が来荘して入居者様とおしゃべりしたり、散歩に連れ出してくれます。たくわん漬けやきやぶき煮の調理レク、外出時、全面的に協力をして頂いています。最後まで施設で暮らしたいと思う気持ちを大事に、医療機関と御家族・スタッフと連携をとり、要望に沿えるようスタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「いつも笑顔で絶やさず」を常に職員は心がけ、そうしたことで職員、利用者共に笑顔になり、理念に基づきグループホームにおけるアットホームを大切にしている。医師、看護師との連携のなかではじめての看取りを体験し振り返ることで、看取することは特別な事ではなく、普段の生活の延長線上にある、死を迎えることの大切さを職員全体で認識し、今後も看取りに取り組んでいく姿勢がある。これまで行っていた日帰り温泉施設への外出は重度化し困難になりつつあるが、利用者の楽しみとして続けて支援をしている。また、今年は牛乳パックの椅子作りを行い、作る楽しみからできあがった作品を利用できる楽しみを通して、たのしみと達成感を味わえるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の、‘入居者はファミリーです’を意識するとともに、事業所の理念でもあるいづつでも笑顔を絶やさないうち介護を心がけています。	朝の挨拶から始まり、職員1人ひとりが笑顔の大切さを理解している。地域の方々とのつながりのなかでも積極的に挨拶をして交流を持ち、ボランティア受入れに繋がっている。理念がケアの実践へと繋がるよう利用者、職員の個々の目標を理念に添って立てているが、理念について管理者・職員が共有する場がない。	常に理念について話し合いを持ち、言葉一つひとつの持つ意味などを共有し、ケアの実践につなげられるよう望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに出向いたり、事業所の夏祭りに近隣の方を招待したりしています。4月位から頻りに近所の子供達が遊びに訪れてくれます。推進会議には主に自治会長や民生委員さんに参加頂いています。また、天気の良い日は散歩しますが、近所の方が温かい言葉をかけてくれます。	自治会長が地域の方々へ情報を伝達してくれることで、夏祭り等の行事には大勢の地域の方々の参加がある。また、散歩中に子供達に話しかけた事をきっかけに、頻りに子供達が遊びに来るなど交流が出来ており、地域とのつながりが保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成27年12月より、認知症相談窓口として活動しています。認知症カフェにも参加し、地域の認知症の方やその家族とお話をします。地域の相談拠点として地域貢献に繋がっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、施設内の近況報告や、家族からの提案や市の職員からアドバイスをもらったり、議題も限定せず様々な意見を頂きサービスの向上に反映させている。参加者は自治会長、家族、民生委員、社長、ケアマネ、管理者などです。9月は初の取り組みで秋祭りの前に開催しいつもより多くの参加を頂きました。	多数の家族が参加できるように、今期は開催日を秋祭り等の行事と重なる日に設定し、いつもより参加者が増えた。運営推進会議のなかで、ホームの「目標達成計画」を共有することにより、家族の方も含め、避難訓練等の協力体制が得られてきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症カフェの情報を頂いたり、介護保険改正の時など分からない時など相談にのってもらっています。生活保護の方もいるので対応なども相談したりしています。	市に、毎月、運営推進会議の議事録を提出することで、事業所の現状を伝え、年1回は事業所見学訪問をしていただいている。生活保護の方々を受け入れていることで、新しい情報を教えてもらったり、相談したり、関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入居の方が施設に慣れるまでは、玄関の施錠は行っている。また、入浴等で手薄の時は危険防止の為、鍵かけはしています。また、身体拘束をしなくてすむように対応方法を常に話し合っている。2月には研修にも参加しています。	重度の認知症の方々を受け入れることに伴い、職員の身体拘束への意識を高めるため研修を行い研鑽している。拘束しても「しかたない」との考えを浸透させないよう、「どうしたら身体拘束しないか」を常に検討している。	身体拘束をしないための検討を行っているが、利用者の尊厳を含めた視点で、もう一度身体拘束をしないケアのあり方についての検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護が虐待につながる事が無い様に、入居者の方、御家族とコミュニケーションをとり、運営会議の時などに外部のアドバイスも頂いています。また、スタッフがストレスを抱えないように話を聞いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの際主に成年後見制度、プライバシー保護や接遇の勉強をしていました。今後は外部の研修への参加も検討したい。職員間での知識の共有が必要と考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはもちろんの事ですが、入居前の見学時にもケアマネ、管理者が説明しています。疑問や不安にはいつでも答えられるようにしており、理解、納得頂き契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・意見箱を設け、来荘時や家族会を開催しなるべく話しやすい環境づくり心がけています。毎年納涼祭やクリスマス会を開催し多くのご家族に参加いただいています。	意見箱を設置している。その他、職員の動きをみて、家族から直接職員に、「部屋の畳の位置を変えたほうがいいのでは」と提案があり、配置を変えたことで動線ができ、安全にケアができるようになった事例がある。また、手作りの畳のカバーを家族が作ってくれるなど、面会時等に意見が言いやすい環境作りに取り組み、協力関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は職員会議を行い、ケアの方法などを話し合っている。また、2月には社長を囲んでお話し会も行った。まめに社長、部長が来荘しており気さくに話ができます。	法人本部の部長が定期的に訪問し現場状況を把握して、職員の意見を聞く体制がある。そうしたなか、重度化し入浴介助での職員負担軽減の為、「リフト付きシャワーキャリー」を設置したり、避難訓練の際玄関から出入りができるようスロープを設置したりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員に本人評価及び管理者における評価を実施している。代表者は職員の事を把握し安心して働ける環境を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加してもらい、事業所内でも、年3回勉強会を企画しています。研修後には、報告書を記入しスタッフで共有できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会の集まりには積極的に出席しています。そこからの繋がりで他事業所との職員交換研修をおこなっています。お互いの施設の良い所、悪い所を書面でやり取りし、今後の施設作りやケアに活かしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはケアマネと管理者が御家族と本人にお会いし、安心して生活がスタート出来るよう、入居者様の事を第一にお話しを伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にケアマネ、管理者、家族が面談し、状況を把握し、要望をお聞きし、安心して生活が始められる様にサポートしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ、管理者が聞き取りの中で今何が必要かを見極め、要望にあったサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事や、やりたいことを聞きながら共に楽しく生活出来るように気を配っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後3~4日は電話で様子を伝え、毎月収支報告書とともに状態報告書を同封、その時に本人の手紙も添えたりします。又、24時間連絡がつく様な体制を組んでいます。電話をかけ家族の声を聴くと安心される入居様は電話も良くかけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行く方、女学校からの友人がたくさん遊びにいらしたり、近所のお茶のみ友達のみえたりし、そこからどうしても今回は入居になる事になりました。	友人の訪問が頻回にあり、関係を維持している。なかには、事業所利用にいたったケースもある。ケアマネージャーが自宅に訪問する際は利用者も一緒にお連れし、高齢の家族との面会の場ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうなときには、間に入りお一人で淋しそうな時には職員が話題を広げる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をしている方も定期的に様子を見に行っています。担当のスタッフとも連携を取りあい、退院にむけて困らないように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出好きな方には出来る範囲内で対応しています。レクに関しては本人の意向を大切にしています。一例としてお寿司屋さんを営んでいたからの発案で、手巻きずしに挑戦しました。他のみなさんも一度は作ったことがあるので昔を懐かしみ、いつも以上に食べていました。	利用者の思いや意向は、日々の会話や様子などから把握している。入居後、寿司屋の経験を活かし手巻き寿司作りをしているうち、事業所に馴染めるようになった事例があるなど、それぞれの特長等を活かした取組みをする事で、存在感を発揮できる場づくりをしている。利用者の思いや生活歴を把握し、その人らしい生活をつづけるための支援をしている。	利用者の思いや意向をさらに把握する方法を検討することで、ケアプランや普段のケアの向上に役立てることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や、介護支援専門員、利用していた施設の方から情報を頂き、現在に至る経過の把握に努めています。お部屋には個人の馴染みの物を持参して頂きくつろげる環境づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフはもちろんDr、看護師等の他職種と連携をとり現状を把握するようにしています。また、健康運動療法士やリハビリの先生には日々の活動が筋力維持につながるようにアドバイスをうけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族ご本人からの要望をお聞きし、スタッフから3ヶ月に1度介護状況報告書を提出してもらっています。これらや、日々の状況をもとに、ミーティングで話し合い、介護計画を作成しています。	ケアマネージャーは積極的に現場に入り、利用者の要望を聞き、望みがかなえられるような計画書を作成し、ケアに活かせるよう職員との連携を密にとっている。不足な部分は、介護状況報告書によって情報を得ている。モニタリングは毎月行っているが、ケアプランと整合していない部分が見受けられた。	ケアプランとモニタリングの内容を一致させ、ケアプランに添ったケアの実践と介護記録になることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日々の様子を、個別記録に記入し、介護計画の見直しに反映するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な方は、御家族の協力も得てご自宅に帰宅したり、週1回のボランティアさんや折々の行事での様々なボランティアさんとの交流を持っています。また、健康運動療法士とも連携をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一週間に一度来るボランティアさんは顔馴染みになっており、一年に一度ひよこ保育園の慰問の受け入れています。外出の際は福祉会館を利用することが多く地域資源を活用しグループホームでの生活が豊かになるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御家族に主治医を決めて頂いています。小野内科の場合、月2回の往診、必要な時は随時適切な医療が受けられるように支援しています。また、週1回訪問看護も来ており、とても良く入居者の体調を把握してくれています。	かかりつけ医や事業所の協力医による往診での診察結果は、家族へ連絡しており、家族の安心感に繋がっている。日々の医療連携は、毎週、看護師の訪問によって健康状態を保ち、事業所の主治医は24時間対応しており、適切な医療の支援や看取り体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを訪問看護師、主治医に報告相談し、異常の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症がある方の多くは環境の変化に戸惑います。特に病院に慣れない方も多いため、退院が可能な状態になったら少しでも早く帰荘できるよう話を進めています。入院時はまめにケースワーカーと連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する説明を入居時にしています。本人・家族・主治医・施設で身体状況の変化に応じ、その都度意向を確認し対応しています。	重度化に関する説明や確認は、入居時や状態に応じて適宜行っている。体験した看取りケアを職員で振り返ることで、看取りは普段の延長線上にあるという視点をもち、日々のケアから細かに対応している。看取りケアの経験を活かし、利用者・家族に寄り添い、意向に沿った終末期のケアプランを作成し実践している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に慌てる事のないよう、救命講習を受講したり、研修をしたり、緊急連絡網が職員室に掲示して普段から慌てないような取り組みをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の内1回は消防署立会いの下、夜間想定避難訓練を行っています。今回は火災報知器業者にも立ち会って頂きました。地域の協力に関しては、相互扶助的な関係が出来るように自治会長とともに努めています。災害に備え施設には二日分の飲み水と食品の備蓄があります。	非常時通報システムを導入し、夜間の体制に合わせて避難訓練を実施している。職員全員が訓練を経験し、速やかに避難できるよう努力している。また、自治会で地域の協力体制作りのマニュアルを作成中で、互いに助け合える地域づくりに努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が嫌な気持ちにならないような声掛け、その方にあった対応を心がけています。	管理者は、「職員同士言われて嫌な気持ちになる言葉は言わない」と常に具体的表現をして、教育している。利用者の呼び方は、基本的に〇〇さんとしているが、家族からの要望で、個々に対応した呼び方もしている。また、認知症のステージに合わせた対応をすることで、尊厳が保てるよう努力している。トイレのドアはなく、安全優先で、アコーディオンカーテンとのれんで対応している。	業務や安全優先ではなく、利用者の立場に立った考え方において、支援のあり方の検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、自己表現の難しい方には表情や行動で感じとれるよう一人一人と向き合い、少しでも思いに添えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日以外でも、ご希望の時は入浴しています。また、帰宅願望が強い時は、散歩にいたり、レクを行っています。自宅が近いかたは、職員がご自宅と一緒にいき、御家族に顔を見せています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの方に頂いた衣類を選らんでもらったり、入浴時は好みの服を選んで頂いたりする方もいます。お部屋に化粧道具があり毎日お化粧している方もおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では少なくなってきましたが、下ごしらえや味見をお願いしたり、季節感が味わえるようにひなまつりには、みんなで手作り桜餅を作ったり、年末にはたくわん漬け、手巻き寿司、土用の丑にはうなぎ、春には庭の野蒜をとり野蒜味噌作り、夏は庭で収穫したきゅうりでキュウリモみ、頂いた山フキできゅうりぶきを煮たりしています。	季節を味わうことを重視し、敷地内にある野菜や果物を一緒に収穫して、食卓に並べている。また、デザートには器が食べられるものを作るなど、食への楽しみが味わえようとしている。新聞広告でみたものを利用者が「食べたい」と言ったことをきっかけに購入して、ハンバーガーパーティーを行った事例もある。利用者が食べるものを選ぶ楽しみを、大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立による食事です。食事摂取量や水分量はシートに記載している。体調や嚥下状態に合わせた形態で提供し、食事量の少ない方は、経管栄養剤を飲んで頂くことになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1年に1度、昨年は9月に青柳歯科クリニックの協力で歯科検診を行いました。一人ひとりのケアの方法を細かに指導してもらい実践しています。もちろん治療の必要な方には訪問治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度に関係なく必要に応じトイレ介助し、排泄パターンが把握出来る方はトイレへ誘導しトイレでの排泄ができるよう取り組んでいます。少しでもおむつ代が減るように毎月の職員会議で話し合っています。	尿意・便意の訴えを伝えることのできない方が、トイレへ行きたくなくなった時激しい動きをするなどその方の排泄サインを意識しながら、重度の方でも昼間は全員トイレ誘導をしている。トイレ誘導することにより、結果的ではあるがおむつ代が減り、家族の負担も軽減する事ができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症と排便は関係が深いので、運動療法士が週に1度来荘し便秘に良い体操を行っています。排便コントロールは個人別ですがマイナス2～3日で下剤、座薬、浣腸で対応しています。また、バナナやヨーグルトを取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は月・水・金の午前中です。気持ちが良かったという満足感を大切にしています。曜日や時間に関係なく入浴、シャワー対応し、一年に一回日帰り温泉にも出掛けています。	マンツーマンでの入浴を支援するなかで、重度化してきた利用者の安全を確保するため、リフト付きシャワーキャリーを設置して、安心・安全での入浴支援を行っている。また、毎年恒例の日帰り温泉ツアーを実施し、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に差支えない程度に、日中は食後の静養をしています。冬には、入床前に足浴し、夜間ゆっくり休めるお手伝いをします。また、個々の体調にあわせ対応し、気温や掛物にも配慮し、電気敷き毛布やトゥルスリーパーを使っている方もいらっしゃいます。天気の良い日は布団干しもします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報には全職員が目を通せる様にし、薬の変更は申し送りの徹底に努めています。その際の状態の変化などは、詳細に記録し、共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一昨年に引き続き12月にはたくわん漬け、日常生活の一貫で雑巾縫い、洗濯たたみ、掃除、夜はテレビ番組を見る習慣の方には見て頂き、個々の生活にあった支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はなるべく散歩に出掛け、月に1度は外出できるように、計画しています。先日は急に高崎観音にドライブしてきました。外出時は地域のボランティアの協力も得られています。御家族と外食される方もいらっしゃいます。	常に外に出られることをあたり前と職員は意識しており、散歩や外出など「どこに行きたいの」等聞いて支援している。不穏になる利用者に対して馴染みの場所へ出かけたことで落ち着いた経験を活かし外部との接触を大切にして、家族にも協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本管理者が管理しています。外出の際は、欲しいものをご自分の判断で購入したり、食べたいものを食べたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望でかけています。手紙に関しては時々便箋に近況をかいて月末の収支報告に同封しています。年末、年賀状を書く様にもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓からはゴルフ場や利根川が見え、庭には四季折々の木や植物が植えてあるのが見えます。居間は床暖房になっています。廊下は回廊になっており、車いすも十分にすれ違いができるようにゆったりとした造りになっています。和室には雛人形を飾ったりしています。	利用者の能力を活用しながら、レクリエーションとして季節に合った手作りのものを作成して飾り、利用者・家族・職員で楽しめるようにしている。ソファなど、くつろげるスペースがある。また、手作りの日めくりカレンダーは、日付を忘れて不穩になる利用者にとって目立つ所に貼ることで、安心と居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、気の合う同士が座れるよう配慮しています。また、共有空間では自由に使えるスペースがありお好みに過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやソファ、位牌、写真、自宅で使っていた布団やのれんなどを使い慣れたものや馴染んだを持ち込んでもらっています。家具の配置も本人や家族の希望もふまえて居心地良い空間を提供しています。	利用者との会話のなかで気づき、毎日化粧をされていた利用者の居室に化粧品を並べ、毎朝、化粧をするようになり、そのことで日々の生活が落ち着かれるきっかけとなった事例があるなど、使い慣れたものやなじみのものを活かし、居心地の良い場となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下、トイレ、浴室には手すりも完備。平成28年3月にはリフト浴も設置され、さらにその方の状態に合わせ安全に入浴ができ生活できるようになりました。		